

生活・学習習慣育成のための学級経営案の書き方

学級経営案は、学級担任の行動案であり、活動のよりどころとなるものです。形だけの経営案ではなく、実際に1年間生きてはたらくものにしたいものです。経営案の各項目について書く作業を通して、見落とししていることを発見したり改めて見直したりすることができます。さらに、学級経営に対する担任自身の考えを深めたり手立てを明確にしたりすることにもつながります。学級経営案の作成は、担任としての重要な仕事の1つです。

学校教育において低学年は、生活・学習習慣育成の大事な入門期に当たります。一口に生活・学習習慣と言っても指導項目は多岐にわたっています。そこで、子どもの実態を把握し、目指す子ども像に向かって何をどのように指導していけばよいのか、重点化を図ることが必要です。また、低学年という発達段階に応じた指導も必要です。1年間の指導を効果的にするためには、生活・学習習慣育成を学級経営案の中にきちんと位置付け、指導項目を整理し、重点化を図ることが大事になってきます。

また、望ましい学級経営にするための処方箋である学級経営案ですが、子どもは日々成長し、実態も変化します。教師の指導及び子どもの活動への評価を含めて反省を加え、計画の見直しをしながら学級経営案を活用していくようにしましょう。

記述する項目

学級の目標 （学級経営目標、学級目標、目指す子ども像など）

の学級の実態をみつめ、問題点をとらえることから解決策を探り、学校、学年の目標を考慮しながら、学級の経営目標を考えます。学級目標は、子どもに教師の願いを理解させ、子どもの思いも出させながら話し合いで決めていきたいものです。

学級の実態 （子どもの実態、全体的な傾向、配慮を要する子どもについてなど）

学級経営を進めていく上で、本当に問題にしなければならないことは何なのか、どの子とどの子にどんな配慮をしなければならないのか、実態を把握することがまず必要です。

そのために、学校の教育目標からみた、学級の子どもの実態を、勘や経験に頼ることなく、子ども理解のためのアンケートや観察で得た資料などからつかみましょ。

生活・学習習慣については、指導項目も多く子どもによって個人差が大きいので、実態を把握するといっても曖昧になりがちです。そこでチェック表や指導項目表を使って、学級経営上問題となる点や配慮を要する子どもの把握を行いましょ。

低学年に育成したい**生活・学習習慣の指導項目一覧**を挙げていますので参考にしてください。

指導の手立てと計画

多くの学級経営案は、担任の「こんな学級にしたい」「こんな子どもに育てたい」という思いが、書かれています。しかし、その思いが強いせいか、スローガンの羅列で終わっている場合もあります。目標に迫るための1年間の見通しをもち、段階的に計画を立て、具体的な指導の手立てを練ることが大切です。また、重点指導の項目をあまり欲張らずに絞ることも必要だと思えます。

指導経過・反省等

4月当初に立てた段階では、学級経営案としては、不十分なままなので、子ども理解に努め、その都度加筆修正を行います。担任の指導計画や方法、子どもの変容など評価を行い、次の活動計画に生かしていくようにしましょう。少なくとも学期毎に反省を行い、経営案をより具体的なプランにしていきたいものです。